

大正期の加須尋常高等小学校子守学級と 加須町立託児所及び加須町立幼稚園の連携に関する一考察

A Study of Cooperation with Kazo Jinjo Higher Elementary School
Baby-sitter Class, Kazo Nursery and Kindergarten in the Taisho period

平井 厚志
(こども学科 特任准教授)

要旨 加須町立加須幼稚園は、大正14年(1925)に創立され、今年、創立93年を迎えた。創立以来連綿と幼稚園が存続している市町村立幼稚園として埼玉県内最古である。その源は幼稚園創立から遡ること2年、加須町立託児所内に幼児部を設置したことに始まる。また、町立の託児所の設立は、大正11年(1922)に尋常高等小学校に子守学級を開設し、働き手としての児童の学習保証目的で、児童が連れてくる嬰兒や幼児を小学校内で保育したことが始まりである。大正期から昭和にかけて加須町は町立幼稚園と託児所を有し、そのいずれもが尋常高等小学校に附設されていた。これらは小学校敷地内に学舎があり、園長と所長は小学校長が兼務していた。この形式は、現在の加須市の小学校及び幼稚園にも引き継がれている。一方、加須市には市立の保育所も設置されており、幼児教育が極めて充実していることがわかる。現在の加須市の幼児教育の充実は、大正期から始まっているとの視点に立ち、調査研究をおこなったところ、加須町における小学校子守学級と託児所及び幼稚園の設立経緯や連携の様子が明らかにになり、今日の保幼小連携の下地をとっていることがわかった。

【キーワード：加須町立加須尋常高等小学校 子守学級 託児所 幼稚園】

I. はじめに

加須町立加須幼稚園は、大正14年(1925)4月、加須町立加須尋常高等小学校(以下加須小学校と略す)に附設されて開園された。開園趣旨等は、加須町長より埼玉県知事に提出された「埼玉県北埼玉郡加須幼稚園設置ノ義二付認可申請」¹⁾に記載されている。一方、同時期に同じく小学校に附設された託児所も存在しており²⁾、小学校に託児所と幼稚園が同時に併設されている極めて稀な状況であった。これらの背景には、小学校内の子守学級の存在が大きく関与していた。本研究では、小学校子守学級・託児所・幼稚園の併設に着目し、それぞれの学校に関する行政資料や記念誌等から開設の経緯や概要を明らかにし、どのように連携を行い、幼児教育を行っていたかを明らかにすることを目的とした。

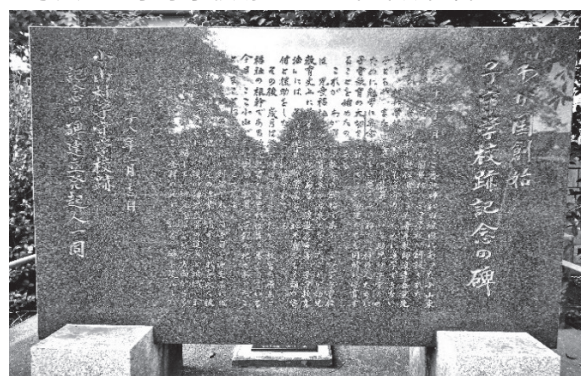
II. 加須小学校子守学級の概要

1. 我が国の子守学校

我が国における子守教育の初見は、穴戸³⁾によると明治7年(1874)の「文部省第二年報」で堺市の「子守のため他家に雇われる子女の如きは、別に教科を設け之を教授す。其方法未だ全備せず」

である、翌年の年報では、「子守学校を開き、子守の児女を学ばしむ」とある。明治5年(1872)に学制が公布されたが、就学の強制力は弱く、特に当時の学齢期の女兒は、子守や家事で労働力の一翼を担っており、就学率は低かった。そのような中、明治19年(1886)の小学校令、明治23年(1890)の第2次小学校令、明治33年(1900)の第3次小学校令⁴⁾が順次公布され、義務教育が規定されていくに従い、就学率も向上していき、全国各地に子守学校が設立されていった。教育史においては、明治16年(1883)に渡辺嘉重が茨城県猿島郡小山村(現坂東市)小山東小学校に子守学校を開設したのが最初とされている。

写真1. 子守学校跡記念の碑(坂東市)

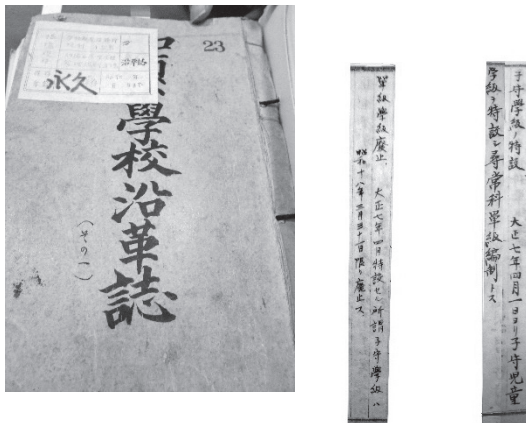


小学校に隣接する香取神社境内の一隅に開設された⁵⁾、1年間で閉校となり、当時の遺構や記録類が残っていないのでその実態は不明である。ただし、渡辺嘉重が翌年著した「子守教育法」には小山村での実践と理想の子守教育が表れされており、組織的な運営や開設の経緯が記されていることから、日本の子守学校の創始とされているのである。

2. 加須小学校子守学級の誕生

加須市の子守学校（学級）は、加須小学校学校沿革誌⁶⁾によると、小山小学校子守学校創設から35年後の大正7年（1918）に加須小学校附設子守学級として開設された。

写真2. 加須小学校学校沿革誌



開設の経緯は、明治45年（1912）4月～昭和6年（1931）年3月まで、実に29年間の長きにわたり加須小学校長を務めた松村由三郎氏が、大正11年（1922）に記した「託児所由来」⁷⁾にその経緯が詳しく述べられている。それによると大正5年（1916）の調査で、加須小学校の児童数が男児に比べ女児が30名余り少なかった。原因を調べてみると、町内の女児が他の町村へ労働に出ていることが分かった。そこで女児が他の町村に出ているならば、逆に他の町村から加須町に寄留する女児がいるのではないかと考え、戸別訪問をして調べたところ、子守等で雇われ他の町村から入町している未就学の児童がいることが判明した。早速、子守女児の小学校就学を雇用主に謀り、了解を得て小学校の普通教室に収容した。

しかし普通教室で子どもを背負ったまま授業を受ける状態では、①子守児童の学力や訓練が碌々進まない、②普通児童の学習を妨害する、③背中の子どもの衛生にも害がある等さまざまな弊害が

あったため、大正8年（1919）町当局の全面的な支援を受け、普通教室に学んでいた尋常科第1学年から第6学年までの子守児童を、単級で編成した「子守学級」に全員収容した。教員は1名、専任の訓導を配置した。ここに小学校子守学級が誕生したのである。学校沿革誌と松村氏の「託児所由来」では、開設年に1年のずれが生じているが、本研究では学校沿革誌に基づいて論じる。

3. 加須小学校子守学級の概要

子守学級の概要について、大正13年（1924）～昭和3年（1928）まで在職した大木⁸⁾が、「そのころ他にあまり類例のない子守学級があった。子守しながら登校の児童も特殊な施設と面倒見のよい先生によって救われていた」と記している。

また、具体的な内容として、子守学級の教育の重点を個別指導と訓練におき教育をした。学級には、赤子や幼児に対して教室の一隅に布団や玩具、絵本を備え、赤子の眠っている間や幼児の遊んでいる折をみて二時間程度の学習をした。なかには、主人の用向きのため午後から出席するもの、赤子を背負ったまま学習するものもいて、その負担は大きく、また、教育訓練上に困難なことも多かった。と述べられている。

当時の子守児童の学習の困難さと、学校当局の温かい対応を見ることができる。

Ⅲ. 加須町立託児所

1. 国内及び埼玉県の託児所（保育所）の誕生

我が国の保育園の始まりは、通説として明治23年（1890）、赤沢鐘美・仲子夫妻が新潟市で創設した「静修学校付設託児所」が始まりとされている。子守児童が連れてくる嬰兒・幼児を保育する託児所の開設であったが、やがて在学生在が連れてくる子ども以外も預かるに至った。このほか、託児所として農繁期の季節託児所や女性労働者の子女を収容する託児所、野村幽香と森島峰によって設立された二葉幼稚園（後の二葉保育園）のような貧困家庭の幼児の保育を目的する保育所等、設立の経緯はさまざまである。

本県での託児所の設立経緯は、埼玉県保育史⁹⁾によると以下の3通りである。

- ① 明治39年（1906）に深谷市の日本煉瓦製造工場に敷設された、女子労働者の幼児を預か

る企業内保育所。

- ② 大正11年(1922)に加須町や三ヶ島村(現所沢市)で開設された、小学校の子守学級在籍児童が連れてくる乳幼児を授業中に預かる小学校に付設の託児所。
- ③ 昭和初期に、農繁期に開設した農繁託児所でいわゆる季節託児所。

今回、②の加須町立託児所について詳しく述べる。

2. 加須町立託児所の誕生

加須小学校子守学級の誕生と概要について前述したが、子守学級に学ぶ児童は、赤子を背負っての学習のため大変負担が大きく、また、赤子にとっても十分な保育が受けられない状況であった。このため、改善策として加須町は託児所建設の予算計上を行い、大正11年(1922)10月、小学校内に託児所を建築し、子守児童が連れてくる嬰兒・幼児を収容し保育を行い、児童を学業に専念させた。ここに町立託児所が誕生したのである。

3. 加須町立託児所の概要

大正11年(1922)の開設当初から、閉鎖する昭和20年(1945)まで24年間、託児所の保母だった久保ちよさんが当時を語った資料¹⁰⁾によると、子守児童は、女児30人、男児5人で、彼らが連れてくる乳幼児は約40人で、久保さんが嬰兒から3歳児まで、奈良女子高等師範学校保母科を卒業した岡田良子さんが、4、5歳児を受け持った。

託児所は子守学級に接続して建てられており寝台が4つ、毛布8枚、敷布60枚が用意され、若干の玩具類もあったとのことである。教授内容の回想として、唱歌や絵をかいり縫物などの手技も取り入れられた、とある。他の資料として加須市史によると、子守児童に授業を受けさせるために、連れてきた幼児を収容保育する目的で託児所を設置したが、翌年(大正12年1923)保母1名を増員し、幼児部と嬰兒部に分け、さらに余力があるため一般困窮者の幼児も収容したとある。この幼児部はのちに幼稚園に発展していく。加須市立加須幼稚園要覧¹¹⁾では同年4月「町立加須託児所内に幼児部を設置、町立加須女学校を一部借用して開園する」と記し、同年を開園としている。

託児所の規定を見ると、保母の定員は3名。う

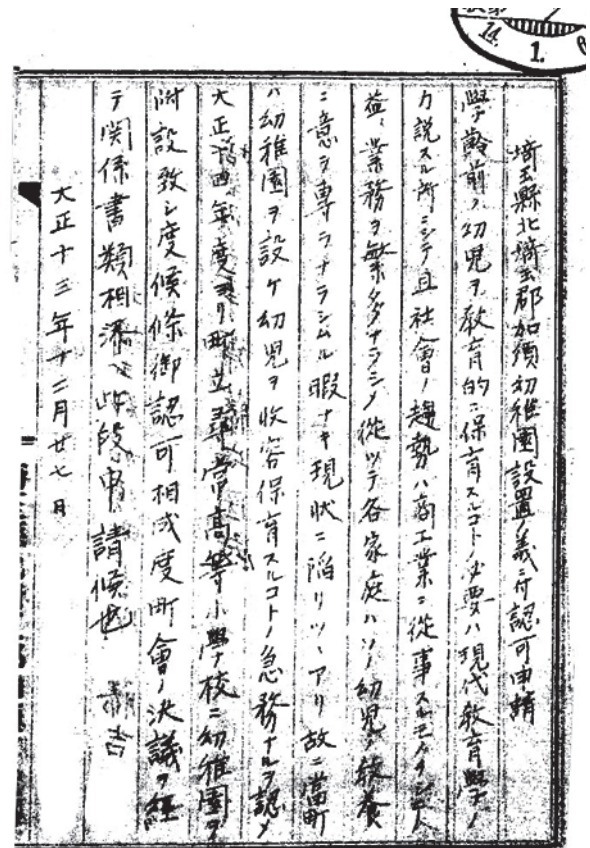
ち1名は子守学級担任訓導に委嘱するとある。大正15年(1926)の職員名に保母 久保ちよ、保母 角田三枝、嘱託保母 岡田ヨシ(幼稚園保母)、嘱託保母 横塚りん(小学校子守学級担任訓導)の名前が見える。小学校の訓導が嘱託保母になっていることから、子守学級在籍の小学生と託児所の子供は関連づけて観察、指導ができ、連携が密に図られたと思われる。現在の保小連携の原型の姿だと思われる。

IV. 加須町立幼稚園

1. 加須町立幼稚園の誕生

託児所が軌道に乗り、町民も幼児教育の重要性を認識するに至り、幼稚園設置を希望する声が高まった。そこで、町長の関口藤吉は、大正13年(1924)12月27日に幼稚園設置の認可申請書¹²⁾を埼玉県知事に提出した。前年には、町立託児所が嬰兒部と幼児部の2クラス編成になっており、幼稚園開設への下地はできていた。

写真3. 加須幼稚園設置許可申請書



大正14年(1925)1月17日に、埼玉県知事から幼稚園設置の認可が下り、同年4月1日、開園するに至った。ここに加須町立幼稚園が誕生した

報告の具体的な内容を以下の表にまとめた。

1) 園児数

園児数は、表1に示すとおりである。

表1. 園数, 組数, 幼児数

設立別	園数	組数	幼児数		
			男	女	合計
加須町	1	2	51	49	100
私立	11	20	49	260	497
計	12	22	100	309	597

表1より、加須幼稚園は4月に開園したが、11月現在、100名の園児が在籍していたことがわかる。県内の総園児数が597名なので、実に17%が加須幼稚園児である。クラス数は2クラスとなっている。この年は、年長者のみを収容したので、100名で2クラスの編成であった。

2) 保護者の職業

どのような家庭の子どもが幼稚園に通っていたか、保護者の職業は表2に示すとおりである。

表2. 幼児保護者職業別

設立別	農	工	商	官吏	軍人	教員	医師	会社員	無職	その他	計
加須町	12	3	57	6		2	1	1	2	16	100
私立	11	34	267	38	3	20	35	52	10	29	497
計	23	37	324	44	3	22	36	53	12	45	597

県全体で商業が50%を超えており、加須町も同様に半数以上が商業であることがわかる。当時の加須町は、明治35年（1902）東武鉄道加須駅ができ、いわゆる町場で人家や商店が多く、保護者の半数以上が商業というのは納得のいくところである。比較的経済的に恵まれていたと推測するが、加須町は保育料を徴収しなかった。当時の幼稚園へは、比較的裕福な階層が保育料を支払、子供を通わせていた。加須町は町費で幼稚園を運営したのである。

但し、開園翌年の大正15年（1926）から、加須町外の入園者からは保育料を徴収した。3月22日付、加須町長より知事あての「埼玉県北埼玉郡加須幼稚園園則一部改正」¹⁵⁾の認可申請によると、第14条「保育料はこれを徴収せず」に次の但書が加えられた。「本町現住者にあらざる園児は園費として1名年額金十円を4月10月の2期に本町収入

役に分納するものとす既納の園費は返還せず」である。町内園児の保育料無料は、平成31年（2019）10月に実施される「幼児教育・保育の無償化」に先駆けること、94年前の出来事である。

3) 保母資格

幼児教育の実施者、保母はどのような資格の人が担っていたのだろうか。県及び加須町の保母については、表3に示すとおりである。

県内13園の保母総数は22名であり、そのうち13名は無資格者である。いかに優秀な保母を確保するか、その困難さは想像に難くない。加須町は

保母検定合格者を2名配置している。前年の設置許可申請書には、保母資格及び員数に「専任保母1名、嘱託保母1名 両者とも最近保母養成所出身の有資格者」とある。

表3. 保母

設立別	小本生資格者	尋本生資格者	準教員資格者	検定合格保母	無資格者					合計
					保母養成機関修了	高女卒業業者	高女卒と同等者	小学校卒業業者	その他	
加須町				2						2
私立	3		1	3	3	2	1	6	1	19
計	3		1	5	3	2	1	6	1	22

注) 私立の合計は20の間違ひと思われる

保母の資格について、大正15年（1926）の幼稚園令で「保母は女子であつて保母免許状を持つ者」とし、その免許状は、地方長官が保母検定に合格した者に与え、小学校本科正教員又は准教員たる有資格者または知事の免許を得たるものとなっている。また、その程度は尋常小学校本科正教員の程度以上の者と定めた。保母資格については、幼稚園令公布以前より、検定によるものもあり各県単位で行われていた。埼玉県報¹⁶⁾には、大正7年（1918）2月5日付で、「幼稚園保母免許状授与者 小学校令施行規則により幼稚園保母免許状を授与したる者左のごとし

授与年月日 大正7年1月31日

現住地 入間郡川越町

族 群馬県士族

氏名 好田 ジュン」の例が見える。

加須幼稚園の開園は、幼稚園令が定められた前年で、保母2名はすでに保母の有資格者であった。すでに検定に合格をしていたと思われる。

4) 保育項目

加須町及び埼玉県保育内容は表4に示すとおりである。

表4. 保育項目

設立別	園数	遊戯	唱歌	談話	手技	其 他			
						行儀	恩物	自然的観察	数え方
加須町	1	1	1	1	1				
私立	11	11	11	11	11	2	1	1	1
計	12	12	12	12	12	2	1	1	1

加須幼稚園は、明治32年(1899)の「幼稚園保育及設備規程」に基づく4項目の内容である。明治44年(1911)の「小学校令ならびに小学校令施行規則の改正」で、従来の幼稚園の保育事項は小学校のように画一的で、望ましくないとのことで削除され、柔軟な保育内容の実施が可能になったが、県は全体的に従来の内容である。しかし、開園翌年に制定された幼稚園令施行規則で「幼稚園の保育項目は遊戯・唱歌・観察・談話・手技等」と定められ、従来の四項目に「観察」を加え、更に「等」でプラス内容が認められるに至った。歴史的にみて加須幼稚園の4項目は、新制度の項目

に対応しており、その内容は引き続き十分に活かされたと思われる。

5) 託児所についての報告

文部省への幼稚園に関する回答中、託児所に関する項目もあり、結果は表5に示すとおりである。

表5. 託児所

設立別	託児所数	年齢別収容幼児数		
		3才以上就学始期末満のモノ	3歳未満の者	計
加須町	1	10	28	38
私立	2	31	21	52
計	3	41	49	90

公立の託児所は加須町立託児所のみである。託児所の項で記載した、久保千代保母の話のとおり、3才未満と3才以上就学前までの38名が在籍している。この年開園した町立幼稚園が無料であることやその保護者の職業が明確なこと、幼稚園園則に入園時に入園届を出すことが決まっていることなどから、この38名という幼児数は明らかに幼稚園児とは異なる、子守学級の児童が連れてきた乳幼児であると判断できる。

同一敷地内に施設があり、保育内容や保母の連携が図られたと推測されるが、実績としての記録は確認できない。しかし、各種資料中に出現する保母氏名に、小学校子守学級も含めて、連携していたことを読み取ることができる。

表6. 加須小学校子守学級・町立託児所・町立幼稚園の関係と保母氏名

	小学校子守学級	町立託児所	町立幼稚園
大正5年(1917)	子守児童を普通教室に後部に入れる(松村由三郎記)		
大正7年(1918)4月	子守学級を特設(加須小学校沿革史誌)		
大正11年(1922)10月30日		小学校に附設して開所(加須町託児所資料) 保母 専任1、子守学級訓導1を置く 保母 久保 千代 角田 三枝 嘱託保母 (子守学級担任訓導) 横塚りん	
大正12年(1923)4月		嬰兒部幼児部を置き幼児部には特殊困難者の幼児をも受託す(加須託児所資料) 保母1名増員する 保母 久保 千代 角田 三枝 嘱託保母(子守学級担任訓導) 横塚 りん 嘱託保母(幼稚園保母) 岡田 ヨシ	町立託児所内に幼稚部を設置して開園する(加須幼稚園要覧)(創立75周年記念誌)
大正14年(1925)4月			埼玉県知事認可 加須町立加須幼稚園と称する(加須幼稚園要覧) 加須町立幼稚園設置許可申請書(埼玉県行政文書) 専任保母1、嘱託保母1 保母 斎藤 シズ 宮本マツ (託児所より兼務)
昭和2年(1927)12月4日 埼玉県保母懇話会出席者 12園所26名		久保千代 角田三枝 横塚りん	岡田ヨシ
昭和18年(1943)3月	子守学級廃止(加須小学校沿革史誌)		
昭和20年(1945)4月		託児所廃止(埼玉県保育史)	現在まで継続

V 子守学級・町立託児所・町立幼稚園の連携

1. 各施設の開設の時期

各施設の開設時期は表6に示すとおりである。当初、託児所と幼稚園はかなり混然として保育を行なったと推測される。表6より、加須町の幼児教育は子守学級から始まり、託児所、幼稚園と短期間に整備がされていったが、施設面での分離は大正15年以降である。

一方、各施設の閉じられた時期を見てみると、子守学級は、昭和18年(1943)となっており、託児所は2年後の昭和20年(1945)となっている。この辺の記録は、戦争による影響が大きい。

埼玉県保育史¹⁷⁾によると加須託児所は、昭和15年(1940)に3室使用していたが、翌年には2室、さらに翌昭和17年(1942)には1室となり、幼稚園との共用になった。

昭和18年(1943)には出征兵士の妻たちの授産所が設置されたので、そこを利用して託児を行なった。ついに、昭和19年(1944)から終戦直後まで、保育の施設はまったくなくなり青空保育となった。小学校沿革誌の子守学校廃止も、この状況によるものと推測する。なお、託児所は第2次世界大戦終結をもって閉所したが、幼稚園は新制度の下で継続し、現在に至っている。

2. 保母に見る連携

特徴的な2つの例が読み取れる。1点目は、子守学級の担任訓導を託児所の嘱託保母にしている点である。子守学級が出来た時、担任は経験豊かな女子教員を配置したとあるが、詳細は不明である。託児所開設時には子守学級担任訓導「横塚りん」さんを保母に委嘱している。子守児童と子守児童が連れてくる幼児とは密接な関係があり、児童をよく知っている訓導が保母も兼ねる結果になったと思われる。

2点目は、託児所と幼稚園の保母が、相互の施設に関与していることである。岡田保母は託児所と幼稚園の両方に名前が見える。幼稚園開設時の斎藤・宮本保母は託児所より兼務となっている。

託児所も幼稚園も小学校に附設しており、主な保育の施設は各々であったが、管理者は加須町長であり、校長もすべて兼務。また、園庭、グラウンドも共通する部分が多々あり、幼児教育に携わる者としては、交流があったというレベルではな

く、同一機関に勤務し、それぞれの担当を分担しているという感覚であったと思われる。現在の認定こども園に近いものであったのではないだろうか。

昭和2年(1927)12月4日に、埼玉会館で保母懇話会¹⁸⁾が開催された。県内の幼稚園、託児所、保育園の16施設から26名の保母が出席し、「児童の取扱いの注意、お遊びの善導、保母検定」等について、活発な意見交換が行われた。各施設から1～2名程度出席の中、加須町からは最大人数の4名が出席している。幼稚園から岡田保母、託児所から久保保母・角田保母、子守学級訓導の横塚さんも託児所保母として出席している。加須町内各教育施設の連携と保母の皆さんの幼児教育にかける熱意がうかがえる。

VI まとめ

本研究において、以下のような知見を得た。

加須町立託児所及び加須町立幼稚園は、小学校に子守学級を開設し、子守児童が連れてくる幼児を保育したことから始まった。その後、短期間に託児所、次いで幼稚園と開設されていった。両者とも町立であり保育料を徴収しなかった。このことは、大正期の保育施設の概念である、託児所イコール貧困家庭の援助、幼稚園イコール富裕層が通うものといったイメージとは、全く異なるものである。それぞれの幼児・児童にとって最善のことを考えた結果である。

保母は、小学校子守学校訓導が託児所の嘱託保母になったり、幼稚園保母が託児所保母を兼ねたりと連携しながら保育にあたっていたことが確認できた。すべて町立であり、小学校に付設していたことで人的に連携ができたものとする。このことは、現在進められている「保幼小連携」の魁である。

当時、埼玉県で公立の託児所・幼稚園を有している市町村は加須町だけであった。幼児教育に対する町民の高い意識、町長や学務委員を中心とする町当局の大きな理解があったからだと思われる。また、加須幼稚園は、開園以来現在まで続いており、現存する公立幼稚園では県内最古である。

加須市では平成29年(2017)3月、加須市公立幼稚園再編整備計画が作成されたが、待機児童もなく、公立幼稚園、公立保育園、私立幼稚園、私

立保育園の間で共存共栄を図っていく内容になっている。幼児を取り巻く大正期の幼児教育に対する精神が、現在も引き継がれており、保幼小の連携も続いている。

保育士不足や待機児童問題等、幼児を取り巻く環境で課題が山積している現在、大正期の先進的な加須町の取組は、解決のヒントになるのではないだろうか。諸問題が解決され、幼児教育のますますの振興を大いに期待するものである。

謝辞

本研究を進めるにあたり、御指導・御助言を賜り、また資料を御貸与いただきました、加須市立加須小学校長松永修様、埼玉県立文書館様、埼玉県立図書館様、廣井写真館様を始め、多くの方々にお礼を申し上げます。

引用文献・注釈

- 1) 北埼玉郡加須町加須幼稚園設置許可, 埼玉県行政文書, 埼玉県立文書館蔵, 1923,1
- 2) 加須市.“子守学級”.加須市史通史編.1981. p.816-820
- 3) 穴戸健夫.“子守学校 - 渡辺嘉重と赤沢鍾美”.日本における保育園の誕生.新読書社.2014. p.66
- 4) 文部省.学制百年史.十版.1972. 帝国地方行政学会
- 5) 坂東市立猿島資料館.企画展図説 - 小山村にあった子守学校 - .2012,1.猿島郷土館ミュージズ.
- 6) 加須市立加須小学校.学校沿革誌.永久保存
- 7) 加須市.“幼児教育”.加須市史 資料編Ⅱ近現代.1983. p.452-454
- 8) 大木和一郎.記念誌 開校百年.加須市立加須小学校.1973,3. p.21
- 9) 埼玉県保育史編集委員会.埼玉県保育史.埼玉県保育協議会.1982,3. p.7-38
- 10) 同上
- 11) 加須市立加須幼稚園.平成30年度 幼稚園要覧.2018
- 12) 前掲1) に同じ
- 13) 菅沼力.創立七十五周年記念誌.加須市立加須幼稚園記念誌編集委員会.1999,1. p.30
- 14) 幼稚園に関する調査の件普通学務局長より照会回答, 埼玉県行政文書, 埼玉県立文書館蔵, 1925,11
- 15) 北埼玉郡加須町加須幼稚園園則変更許可, 埼玉県行政文書, 埼玉県立文書館蔵, 1926,1
- 16) 埼玉県.県報第547号.埼玉県立文書館蔵.1918,2
- 17) 埼玉県保育史編集委員会.埼玉県保育史.埼玉県保育協議会.1982,3. p.82-83
- 18) 埼玉教育, “保母懇話会”.埼玉県教育会事務所.1928,1. p.123-124